

平成27年度 第4回島田市総合教育会議議事録

日時	平成28年2月5日(金)午後3時00分～午後4時38分
会場	島田市役所 第三委員会室
出席者	染谷絹代市長、牧野高彦委員長、高橋典子委員、北島正委員、濱田和彦教育長
欠席者	五條早規子委員
傍聴人	
説明のための出席者	畑教育部長、小出教育総務課長、森下戦略推進課長補佐、鈴木教育総務課長補佐、加藤教育総務課主査、大谷戦略推進課主査
会期及び会議時間	平成28年2月5日(金)午後3時00分～午後4時38分
議事	(1) 島田市教育大綱について (2) 教育のための整備並びに教育、学術及び文化振興等に係る検討課題について
染谷市長	<p>開 会 午後3時00分</p> <p>では、定刻となりましたので、ただいまから第4回の総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>開会にあたりまして、一言ご挨拶を申し上げます。</p> <p>本日は大変お忙しい中、当会議に御出席をいただきまして、ありがとうございます。</p> <p>これまで行ってまいりました3回の会議の中で、大綱について多くの御意見をいただきました。当市の教育の目指す姿について、よりわかりやすいものになってきたかと思っております。</p> <p>本日、第4回の会議につきましては、これまで協議を重ねてまいりました大綱について決定をしたいと考えております。</p> <p>また、大綱が決定した以降の時間については、皆様から、教育のための整備並びに教育、学術及び文化振興等に係る検討課題についての御意見をお伺いしたいと考えておりますので、委員の皆様方どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>では、ここで牧野教育委員長からご挨拶をいただきたいと思っております。牧野委員長、よろしくお願いいたします。</p>
牧野委員長	<p>皆さん、こんにちは。</p> <p>先日、市制10周年の記念講演会がありまして、また一つ勉強させていただきました。一言申し上げますと、「丸馬出(まるうまだし)を見たかったら諏訪原城へ行け」という言葉をいただきました。PRしながら、自分たちのまちを知るいい言葉だなと思えました。</p> <p>本日、先ほどお話にも出ましたけれども、緑茶化計画は島田市にとってお茶も大切な要素です。それも含めて教育という厳しいいろいろな問題があったり、それも島田の大きな一つです。きょうは屈託のない、熱い会議をしていただければと思います。よろしくお願いいたします。</p>

[議 事]

染谷市長

ありがとうございました。

それでは、次第に従いまして議事に入りたいと思います。

まず（１）の島田市教育大綱（案）について、事務局から御説明をいたします。事務局お願いします。

小出教育総務課長

事務局でございます。

それでは、島田市教育大綱につきまして、御説明申し上げます。

まず、先日実施いたしましたパブリック・コメントについて報告させていただきます。

島田市教育大綱（案）に係るパブリック・コメントについては、平成27年12月16日から平成28年1月15日までの間、実施いたしました。

この間、事務局に届いた意見はございませんでしたので、その旨御報告いたします。

なお、パブリック・コメントと同時に、市役所内の関係各課に対して意見照会を行いました。この中で1件御検討いただきたい意見がありました。

それでは、ここで本日お配りしています資料1、島田市教育大綱（案）の2ページ以降をごらんください。

3ページ上段の2、施策の柱の中の（3）自発的な生涯学習活動の活性化でございます。提出されました意見は、生涯学習の語意が、生涯にわたって学習することであることから、「生涯学習活動」を「生涯学習」としてもよいのではないかというものでございました。この件につきまして、本日の会議の中で御協議願います。

説明は以上でございます。

染谷市長

ありがとうございます。

事務局からの説明が終わりました。

それでは、島田市教育大綱(案)について、皆様から御意見、御質問をいただきたいと思います。

まず、先ほど事務局から説明がありました、施策の柱の（3）自発的な生涯学習活動の活性化について、「生涯学習活動」を「生涯学習」としてもよいのではないかという担当所管からの意見です。このことについて御意見を伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。

どうでしょう。この「生涯学習活動」というのは「生涯学習」という言葉でよいのではないかと。なぜならば、生涯学習というものは、その意味として生涯にわたって学習すること、そのものだからということでございます。「活動」という文言を取るとのことなのですが。

北島委員、お願いします。

北島委員

おっしゃるとおりで、「活動」はなくていいというか、ないほうが良いような気がいたしました。

染谷市長
牧野委員長
染谷市長
高橋委員

ほかには御意見いかがでしょうか。牧野委員長。

「活動」という文言は削除してもいいと思います。

高橋委員もよろしいですか。

同じです。

染谷市長
濱田教育長
染谷市長

教育長はいかがですか。よろしいですか。

はい。異議ありません。

ありがとうございます。

それでは、(3)につきましては、「生涯学習活動」を「生涯学習」として、自発的な生涯学習の活性化とすることによりよろしいでしょうか。

(「異議なし」という者あり)

ありがとうございました。

では、(3)につきましては、自発的な生涯学習の活性化とすることにいたします。

それでは、そのほかの項目についてはいかがでしょうか。

皆様から御意見をいただきたいと思えます。ほかにお気づきの点がございませうでしょうか。

北島委員

3ページの下のところ、(6)の文化芸術活動の振興の重点的取組の説明文のところですが、後半の、特に当市で育まれてきた茶の文化については、この当市というのとは何か行政単位の市というもので区切られたものとは少し感じが違うのですね。歴史的にはこの地域ということではないかと思うので、むしろ「当市」ではなくて、「この地域で」のほうが、かえって無理がないのかなというように思いました。

ということは、最後の行もですね、「市の文化」ってなりますが、お茶の文化は市の文化かということ、それも同じことでして、「この地域の」というぐらいのほうが当たり障りがないかなというように思いました。

もう1点あります。同じ一番下の行です。広く全国、世界へと発信し、これが何かこう、どう言ったらいいのでしょうか。新聞などではこういう時にどう書いてあるかということ、国の内外、国内外というように大抵書いてあるのですが、そちらのほうがいいのではないかというように思いました。何かすごく幼稚な感じがするのです。

それから、世界にはいろいろな世界の意味があつて、お茶の世界とか、この狭い世界とか、何か広がりがあるのかないのかわからないとか、世界へどういうふうに、どこの世界にというのがよくわからないのですが、内外でしたら一国でも二国でも、それは百国でもオーケーなものですから、むしろ「国内外」というように変えたほうがよいのではないかなと。

それから「へと」の、「と」は要らないのかなと思いました。

以上です。

染谷市長

皆さん、御理解いただけましたでしょうか。

3ページの下から3行目、「特に当市で育まれてきた茶の文化」ということについては、行政上の市の地域ということだけではないので、この地域で育まれてきたというようにしたほうがよいのではないかと。

また、一番最後の行にあります、「広く全国、世界へ」というところは、世界というものは能の世界というような言い方もあります。茶の世界ということもありますので、「国内外へ発信し」ということのほうが正確に意味が伝わっていくのではないかと。

そして、「広く国内外へ発信し」ということで「と」を取りたいということと、「市の文化として広くアピールします」というところを、「この

地域の文化として広くアピールします」という御意見でございます。

北島委員の意見に対して御意見はいかがでしょうか。牧野委員長いかがですか。どうぞ。

牧野委員長

私も気になっていたところなので、この文章でわかりやすくなりました。これでいいと思います。

染谷市長

高橋委員、いかがでしょうか。

高橋委員

「当市」というところを変える意見には賛成です。「地域」とするものか、例えば島田市というのでは、やはり地域のほうがいいのかなと思います。少しそこは、何をここに入れたらいいかというところまでいかないのですけれども、この当市というのをやめることはいいかなと思います。

それと一番下の国内外という言葉はいい言葉だなと思いました。

染谷市長

今、地域という言葉で、地域がいいのか島田市がいいのかというような言葉がございました。

多分これが全体として島田市の教育大綱ということになっているものですから、そのかかわりの中で「この地域」という言い方ですと、多分広くとればお茶の文化があるのは、この近隣全部が入ってきますし、そのあたりの表現として「この地域」がいいのか。島田市あるいは島田市が目指す文化、芸術活動の振興ということについて書かれている文章でございますので、その中での「この地域」ということであれば、当然、島田市のこの地域だというように見ていただけるのか、広くとれてしまうのかというあたりの御意見はいかがでしょうか。

濱田教育長

私は「この地域」でいいかなということは思っています。

今、北島委員のお話を聞きましたら、「当市」というよりも「この地域」というほうがいいなと思います。

例えばですね、具体的な例を挙げますと、金谷境と菊川境には、大変入り組んでいるところがありますし、そういう中では、例えば茶草場農法などはお互いに連携しながら高め合ってきているし、これからも保存していかなければならないなということを考えますと、「この地域」でいいのではないかな。

先ほど市という話になりますと、その後の言葉に市民の理解をというところで限定的に絞った文言になっているものですからね、地域については広く、で理解と愛着、こちらが施策として進められる対象は市民ということだものですから、ここで市民とうたっているものですからね、「この地域」で十分に意味も通じるし、いろいろな人から言われても、いろいろな説明ができていくのではないかなということを思います。

最初の案よりも、「この地域」というほうがいいのではないかなということは思います。

染谷市長

ありがとうございます。

高橋委員はよろしいでしょうか。

高橋委員

いいと思います。

染谷市長

それでは大方の意見、皆様の御賛同をいただきましたので、3ページの下から3行目、「特に当市で育まれてきた」というところの「当市」を

「この地域で育まれてきた」というように改めます。

そして、一番最後の行ですが、「広く国内外へ発信し」ということで、「国内外」というふうに入れ、「世界へと」の「と」を取るということになります。「広く国内外へ発信し、そして、この地域の文化として広くアピールします」ということで、最後の行の「市」という言葉も「この地域」に置きかえるということによって御賛同いただけますでしょうか。

(「はい」という者あり)

ありがとうございます。

ほかにはどうでしょうか。よろしいでしょうか。

よろしいですか。

(「はい」という者あり)

ありがとうございます。

それでは、本日修正いたしました内容で島田市の教育大綱を決定することといたします。

続きまして、(2)の教育のための整備並びに教育、学術及び文化振興等に係る検討課題についてに移ります。

第1回の会議で、島田市総合教育会議の運営方法等について御協議をいただいているところでございます。

この中で、協議事項につきましては、一つ目として大綱の策定に関する協議、二つ目として教育を行うための諸条件の整備、その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興等を図るため、重点的に講ずべき施策、三つ目としては児童・生徒等の生命または身体に現に被害が生じ、またはまさに被害が生じるおそれがあると見込まれる場合等の緊急の場合に講ずべき措置、以上の3点となっています。

これからの時間は、二つ目の教育を行うための諸条件の整備、その他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るため、重点的に講ずべき施策について御意見を伺いたいと思います。

早急に、または将来的に必要となると思われる事案、事項、施策について、端的に項目を挙げていただきまして、若干の理由を御説明いただければと思います。

御意見につきましては、本日の会議の中で結論づけるものではなく、これからの協議の参考としていきたいと思いますので、予定の時間まで多くの御意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。

どうでしょうか。日ごろからお感じになっていらっしゃる事等ございますでしょうか。いかがですか。

牧野委員長、ございますか。

どのようにくくったらいかわからないですが、少し話をしてみます。

学校教育、それから子供の教育についてですが、幼稚園が、市内では私立の幼稚園がありまして、それから保育園が民間と島田市立とありますが、特に幼児教育が大切だといった中で、少し市内私立幼稚園との連携といいますか、それから教育委員会の中で私立幼稚園の内容とかその辺をうまく内容を知り得る、あるいは連携をして何かをするというところが少し不足しているのではないかなと感じております。

牧野委員長

社会教育課のほうでもやっていますけれども、家庭教育学級があります。その家庭教育学級へ出る、あるいは子育て支援から始まって、それが小学校、中学校へ保護者同士の連携をつくりながら成長していく親同士の関係、それから市と親との関係、それが非常にこれから、我々の時代もそうですけれども、非常に重要なものだと思います。

ところが、そこは一つ私立の幼稚園ということがありますので、少し関連が薄いかなということを感じておりますので、その辺の施策をまた考えていただければと個人的には思っております。

それからもう一つ、教育委員会サイドで、子育てのいろいろな講座をたくさん持っております。社会教育もありますし、学校教育にもあると思いますけれども、それから文化事業もあると思います、文化課のほうでも。それと、市のほうの福祉の関係での子育て支援との連携が、それぞれが活躍されているので、もう少しうまく連携すればもっと大勢の方が参加できたりするのではないかなということがあります。それが二つ目です。

それから、子育て支援にも関係するのですが、各社会教育施設にも関係あるのですが、公正な運用になっているかどうかということなののですが、例えば親子で参加する行事が昼間の10時ごろからありますと、働いている方は参加できません。

それから、いろいろな施設の近い方は歩いて参加できるのでありますが、遠くの方は、場所によってはいろいろ来れない事情があつて、参加できないということもありますので、公民館施設を初め、そういった講座を開く場所、それから学校とが公正な運用になっているかどうかを、また皆さんで議論したほうがいいのではないかなということをおもっております。

最後ですけれども、四つ目。今、市民遺産ということで皆さんに御検討いただいておりますけれども、住みたいまち島田ということ、それから地方創生について、非常にいい着眼点だなと思います。

島田市は、合併に合併を重ねてきたまちだものですから、それぞれの地区の特性は、それぞれの皆さんが頑張っているんですが、お互い共有するという意識がまだ芽生えておりません。同じ島田市の中にあつて、あちらの地域は、こちらの地域はというようなところがございまして、これから伝統を受け継ぐということも含めて、全市にわたって各地区の特性を生かし合うような施策があるといいなと思います。

最後にと言いましたけれども、もう一個あります。これが最後ですけれども、島田市内の外国人との交流です。今、島田市内に、少し人数はわかりませんが、外国人の方が多数、お見えになっている方もあるし、働いている方もおいでだと思います。その人たちと交流することによって、島田のよさを逆に知る、それから世界へ島田をPRできるいいチャンスだと思いますので、外国人との交流をまた推進していくのもいいのではないかなと思っております。

とりとめのない意見でございますけれども、このような形でもよろしいでしょうか。

ありがとうございます。五つの御意見を出していただきました。

この五つから御意見をいただくということで、まずよろしいでしょうか。

一つは、幼児教育が大事と言いながらも、市内にある私立の幼稚園との連携がまだ十分図れていないのではないかと、どのような連携が図れるのかということでございました。

二つ目は、社会教育課で行っている子育て支援とこども未来部、子育て応援課で行っている子育て支援との連携がもっと進められないかということ。

そして3点目は、施設の運用や講座の開催時間、日時等がすべての子育ての親たちにとって公平・公正な運用になっているのか、という御提起がございました。平日の午前中というようなことでは働いている親御さんは参加できないし、また地域、開催場所が偏っていると、遠くの方は参加できないというようなこともありますということでした。

四つ目は、市民遺産ということで住みたいまち島田をPRするよい機会だけれども、合併を重ねたまちにあって、それぞれの地区の特性があって、その地区の方は、例えば島田大祭を自慢に思っているし、茶祭りを自慢に思っているし、野守のさくらまつりも大変に自慢に思っている。だけれども、それが全体、市域全体の共有財産としての意識は育ってきているかという御提起でございました。

そして5番目には、市内外国人との交流ということで、外国人との交流によって逆に島田のよさを知り、かつまたその方々に発信していただくということで島田のよさをPRできる、アピールできるのではないかとという五つの御提起をいただきました。

まず一つ目から行きたいと思います。

一つ目は、幼児教育の大切さと言いながら私立の幼稚園との連携というものが十分ではないのではないかとこの点については、いかがでしょうか。

私も少し意見を言わせていただいてもよろしいでしょうか。

私自身も、実はこのことをずっと考えておりました、小学校1年生からやっている家庭教育学級が現実的には非常に形骸化してきていて、イベントのような形になってしまっている。

本当は、もともとは母親学級というところから始まっていて、しつけ等ですね、親が親になるための学びをする場所だったと思うのですね。

これが他市においては幼稚園の中に家庭教育学級を持っているところがございます。菊川市もそうですし、焼津市もそうです。市のほうから補助金を受けて、それぞれの幼稚園が幼稚園の中に家庭教育学級を持っておりまして、そのつながりがまた小学校に行っても続いている。

学校によっては、小学校に上がってからの家庭教育学級は全市を1クラスにして、希望者だけにしていると。幼児のときに重点的に家庭教育をやっているというような地域もございます。

ですから、これは私立の幼稚園の御協力なしにはできないことではあ

るのですが、この幼児教育の大切さと言いながら、一方で、そこに直接的に今の教育委員会は手を出せない状況にございますので、どのような連携をしていけばよろしいのかということについて、もう少し皆さんの御意見をいただければと思います。

高橋委員、いかがですか。

高橋委員

とても問題なことだと思っています。

島田市は生まれる前に健康づくり課で母子手帳をいただいて、その後出産をして、何回かの健診を受けたり、予防接種等を受けて、保健師さんの見守りの中で成長していくわけですが、幼稚園に入りますと、その間、保健師さんとの交信がなくなるそうです。そして次に皆さんの目に触れるときには小学校に入学するときの就学時健診です。

そうすると、幼稚園や保育園に入っているときは見守りが途絶えてしまう。それは今、市長がおっしゃったように、幼稚園のときに行政と連携がとれていれば情報の交流や交換や、それから、もし発達の障害を持っている子供さんがいれば、そのまま見守り体制ができると思うのですけれども、なかなか私立の幼稚園となると、それぞれが特色を持った園の経営方針があって、それを一つ、公立の幼稚園や保育園のように同じような型にはめるということはなかなか難しいことだと。やはりそこは、私立の幼稚園の園長先生初め主任の先生方にお集まりいただいて、学校教育課の中に私立の幼稚園にも出かけて行って見ていただける指導主事の先生がいてくだされば、一つ架け橋になるかなというように思います。

それが問題の解決にすぐにつながるわけではないのですが、やはりいつも何かあったときには市も応援しますよ。私立の幼稚園の先生方も、私たちに情報を共有させてくださいという形をつくるのが、まずはしなければいけないことかなというように思っています。

染谷市長

学校教育課の指導主事の訪問というのは、やっているのではなかったですか。

濱田教育長

五和幼稚園が島田市立のときにはそういうような訪問もしていましたが、現在は、こちらから出かけて行ってという計画的な訪問は行っていません。

ただ、要請があれば行くということで門戸を開いてはいるのですが、私立の幼稚園から特別な要請というのがないようなのが現状だと思っています。

私たちも、学校教育課のほうも、その部分については大変心配をしているものですから、ぜひ市と各私立の幼稚園との連携というのは考えていかなければならないなどは思っているのですが、現実問題としては、情報提供ぐらいはできるけれども、積極的に中にかかわっていくということではできていないのが現状だと思っています。

染谷市長

わかりました。

北島委員

北島委員、いかがでしょうか。

私は若干違った感触ですね。

私立の幼稚園というのは、それぞれに教育の理念を持っておられると

思います。それをそれこそ尊重すべきことなのではないかと思えます。

それが基本的に甚だしく一般常識と変わっているといえますか、少し相入れないようなものがあるのであれば問題でしょうけれども、そうでなければ、それはやはり自主性に任せるとというのが全うであろうかと思えます。

それよりも、むしろ保育園と幼稚園ですね、こちらのほうがどうなっているのかな。ここをうまく、どちらも結局、何がきっかけであっても子供が日に日に育っていきます。待たなしで育っていくのです。ですから、どちらも教育的な要素が必要になってまいるわけですが、そこで学校に入る前に大体こんなことを身につけておきたいというようなことを、どちらもそれなりのペースで、やはり身につけさせてもらいたいと思えます。

その時に、むしろ幼稚園と保育園とは、何て言うのでしょうか、情報交換をして、そして前々から言っておりますエリクソンのライフサイクルモデルのところの乳児期、幼児期、4歳ぐらいまでのところ、あるいは5歳ぐらいまででもいいでしょうか、ぐらいのところ、自分を、あるいは人を信じられるかどうか。基本的な信頼感をきちっと育てる。

それから、その次の段階の自立性、セルフコントロール、自分で自分を律するということの一番もとになるもの。これをきちっと育てておくということ。これを保育園にしても、幼稚園にしても、最低大雑把な話ですけども、このぐらいのところをきちっと押さえてもらうための情報交換はしてもらいたいなというように思いますし、教育委員会も要請があればというより、もし何か機会がありましたら、もう少し積極的に何かそういった仕組みができるというように思います。

そして、幼稚園は一応教育委員会、それから教育部ですか、それと保育園のほうは福祉だと思うのですが、こういった市の施策の中で壁をつくらないといえますか、壁はあるわけなのでしょうけれども、ここを少し特別にこの部分だけでも穴を開けていただいて、うまくやっていたらいいなというように思います。

ありがとうございます。

例えば保育園の園長さんたちと私との意見交換会というのは毎年あるわけですね。ほとんどの場合、補助金ですとか、やはり行政との支援の在り方についてのお話や中身が多くてですね、教育的な中身には入っていないのですが、それでも育休退園がいいのかどうかとか、そういったこともいろいろと話題になって、随分深い議論をしております。

傍聴の中にこども未来部長がいますので、幼稚園と保育園の連携ができていくかということだけ少し聞かせてもらいたいと思えます。どうでしょう。

今、現状ではですね、連携がとれていない状況です。

保育園については、毎月施設長会議もやっていますし、担当ごとの各園との連携はとれています。幼稚園のほうとは連携ができていない状況です。

わかりました。

染谷市長

今村こども未来
部長

染谷市長

教育長。

濱田教育長

日をしっかり記憶していないのですが、多分市長も参加なさったものですから御存じかなと思うのですが、私立の幼稚園の研究発表会が昨年度あったと思います。

その時の研究発表を聞きましたら、幼稚園ってこんなに研究をやっているんだって驚かされました。島田市の幼稚園も発表していたのですが、島田市の研究内容は数園、確か3園ぐらいの幼稚園が協力して、同じテーマで研究をしてそれを発表していました。ですから、幼稚園そのものは相当研究体制をとっているということは、やはり私たちも理解しておかなければならないなと思います。

そういう研究の中で、もし求められれば指導主事を派遣するということはあると思うのですが、それぞれの幼稚園が研究するとき、それぞれの立場で必要な講師を要請してやっているのではないかなということも想像するものですから、そこら辺の実態を少し把握しないと、こちらからの一方的な押しつけになってしまう可能性もあるなということも理解しておかなければならないなと思います。

染谷市長

そのとおりですね。

指導主事の派遣を、こちらも積極的に行っていないという現状があるかもしれませんが、向こうも指導主事を使えるというように思っているんじゃないかもしれない中で、ぜひ園長会議というものも、これも保育園は毎月のようにやっているのですが、幼稚園のほうは年に何回かしかやはり園長会議というものがないそうです。

そうした中で、一度おじやましたいというように思っているがまだ実現していないのが実情なのですが、教育委員の皆様と私も交えても構いませんが、園長さんとの意見交換会などをこちらから提案をしてみるというのはいかがでしょうか。そこでまた幼稚園側の御希望も伺いながら、どういうようにやれば、幼児教育を大事に思う気持ちはお互い同じですので、そこで連携を探っていくということではどうでしょうか。

北島委員、いかがでしょう。

北島委員

大賛成です。

染谷市長

牧野委員長、いかがですか。

牧野委員長

よろしく申し上げます。

染谷市長

よろしいでしょうか。

では、この件につきましては、どのような連携ができるのかということについて、お互い幼児教育は大事だという強い思いを私ども教育委員会も、島田市も持っている、幼稚園ももちろん同じことを考えていますから、一度園長さんの皆さんと教育委員との意見交換会をお願いできないかどうかということでお話しをさせていただいて、その中で出てきた課題について、また連携を深めていけるように鋭意努力をしていきたいと思えます。

よろしいでしょうか、この件につきましては。

では、2番目の社会教育課サイドで行っている子育て支援とこども未来部の子育て応援課のほうで行っている支援の連携ということで何か御

意見はございますか。

高橋委員

高橋委員、どうぞお願いします。

今、社会教育課と子育て応援課のほうで幾つかの講座を行っています。それは今まで似たような講座がたくさんあったのですけれども、ここに来てお互いの課の皆さんがいろいろなアイデアを持ち寄って、ノーバディ・イズ・パーフェクトとか、それからベビープログラムとか、そういったものを行っています。

ベビープログラムは、健康づくり課の保健師さんの多大な御協力のもとに、まさしくきょう午前、午後と二つの講座が同時に始まりました。

とてもよく情報の交換をしていただいているなというように感じています。それぞれがやらなければならないことがたくさんあるんですね。ですけれども、このことに関しては綿密に時間をかけて打ち合わせをして、それから対象となるお母さんたちのことも詳しく情報交換しながら、その方たちの学びの場になるように、友達づくりの場になるように、とても細やかな配慮がされていると思っています。

民生主任児童委員さんたちとの会合があったのですが、民生主任児童委員さんたちは、主に学校へ入られることが多いのです、学校の様子とか、それから発達障害の子供さんのこととか、うまく理解されていない部分がたくさんあったような気がします。

ぜひ福祉課さんも入ってテーブルを囲むことが、やはり成果が一つずつ上がってくるのかなと現在思っております。少し前に比べたらとても連携が進んでいるなというように感じております。

染谷市長

ありがとうございます。

私自身もそこはとても気を使っているところで、お互いにやっている行事を知らない。あるいは日時が重なってしまうというようなことの決してないよということでは気をつけているのですが、やはり社会教育課と子育て応援課だけではなくて、健康づくり課とか福祉課とか、まだまだつながっていく幅があると思いますので、そういった連携を深めながら、まさに親を育て、子供を育てる施策、子育て支援を充実させていきたいなというように思っているところです。

この連携、横軸での連携ということについて、ほかには御意見ございますでしょうか。

よろしいですか。はい。

御指摘もいただきました。数年前よりはよくなっていることは間違いありませんが、しかし、まだまだ連携の幅を強めていく、広げていくということはあると思いますので、社会教育課も、それから子育て応援課も、そして健康づくり課も、福祉課も、また関連するさまざまな課が自らのこと、自分ごとだと思って連携できるように私のほうからも話をしたいと思っています。ありがとうございます。

高橋委員

一つよろしいでしょうか。

染谷市長

はい、どうぞ。

高橋委員

先ほど少しお話しの中に出た家庭教育学級のことです。

我が家では、もう二十九にもなる娘が保育園のころからこの家庭教育

学級はあったわけで、ずっと同じ体制で今まで来ていると思うのです。それがやはり時代や社会の流れに応じて、よりよい学習の場になるように少し皆さんで知恵を出して、私立の園長さんたちがぜひ我が園でも家庭教育学級をやりたいなというような形になるといいなと思っています。

課を越えて、いろいろな方の工夫や御意見を寄せていただいて、よりよい学級にしないと、せっかくの学びの場が時間の無駄になってしまうと思うのです。

友達もできる、学びもできる、こういう場はなくしてしまうと、なかなか新しく始めるのは大変なので、いい形で存続ができるといいなというように思っています。よろしくお願いします。

私も同じことを思っています。

家庭教育学級のあるべき姿って、30年以上もやって、昔はみんなお家にお母さんたちがいた時代から、ほとんどの方が働く時代になってですね、やっぱりその在り方でありますとか、内容については改善、検討の余地があるのだというように思っております。

こういったこともぜひ検討しながら、私立の幼稚園にも御協力いただけるとありがたいなと思っています。

一度お話しをしたことがあるのですが、ある幼稚園の園長さんがおっしゃった言葉は、お母さんたちは幼稚園に出てくる回数がふえると、あそこの幼稚園はなかなか大変だよって話になって、園児の募集が十分に行われないと。だから、できるだけお母さんやお父さんの負担を軽減しないと園児が集まらないんだというお話しがありまして、家庭教育学級は負担になるというようなお話しもあったのですね。

ですから、どこの幼稚園も研修はやっていると思うのです。ですから、そこにのせていただくとか、あるいは負担にならない、しかも市の応援を得て、経営の一助にもなるような家庭教育の在り方について、園長さんとのお話しの中にもぜひ話題に出していただいて、御意見を聞いていただければありがたいというように思います。

では、3番目の課題に入ります。3番目は、公民館施設や、あるいは子育て、親育てのさまざまな講座等が開催される時間帯や曜日や場所が本当に公平・公正な形になっているのかと、公正・公平な運用がされているのかという課題でございました。

確かに平日の午前中というようなプログラムでは、お家にいるお母さんしか参加できません。一方で、土日となりますと、今度は職員が休日出勤して来なければならない。あるいは会場がうまく取れないというようなこともあって、今ターゲットを絞りながらやっているというような現状だと思います。土日に講座を持っているところもたくさんございます。一方で、平日にあわせてやっているところもあります。

こういった開催の運用の在り方といいますか、そのことについて御意見をいただければというように思います。いかがでしょうか。

高橋委員、ありますか。

これは例えば金谷地区とか、学習センターでの講座ということでした

染谷市長

高橋委員

か。

染谷市長
牧野委員長

それだけではないですよ。

それだけではなくて、子育ての支援の講座も含めて。

公民館を利用しているいろいろな講座があると思うのですが、それぞれに公民館に特色はあるし、いろいろな内容も特筆すべきすばらしい活動をされているところもあると思いますけれども、たまたまその時間にうまく乗った方には十分御利用いただいているのですが、その時間外でしか空いていない皆さんには施設の利用がされていないと思いますので、そのことを話しました。

染谷市長

例えば、初めての赤ちゃんが生まれるパパママ講座のようなものは、土日ですとか夜ですとか、働いている方も出られるような時間帯にしていると思うのです。

ですから、それぞれの事業によって時間帯は定めているとは思いますが、より公平な運用をとることになりますと、改善点がもしあればお伺いしたいと思います。

北島委員、お願いします。

北島委員

実習などを伴うのは少し無理かもしれませんが、話で済む講演とか講義というか、そういったことで済むのであれば、例えばビデオといいますか録画をして、これを希望者に貸し出すとか、あるいは今はそれこそITの技術でもってコンピュータで配信するというようなことがひょっとしたらできるかなと思うのですが、そういった方法はどうでしょうか。

濱田教育長

以前、子育て広場に参加させていただいたことがあるのですが、そういうところに来ているお母さんたちは、一部に不安を抱えた方、もっと言うと、心に若干ストレスを持っている方たちも参加をしていました。

そういう人たちの様子を見ていますと、同じような環境にいる、例えば子育て最中の同じような母親と話をすること、またはペアレントサポーターみたいな方たちと話をすることで救われていると思いました。

ですから、人と人とのつながり、そういうものを大事にしていかないと、こういう子育てで大きなストレスを抱えている母親の支援にはならないのではないかなということを思います。

今、北島委員からお話しがあったような、IT機器の活用というのも、それほどストレスを抱えていないような方にとっては有効だと思いますが、本当にこういう支援を必要とする方たちにマッチングするかということについては、十分な検討が必要ではないかなということは思います。

染谷市長

ありがとうございます。

いかがでしょうか、牧野委員長、御意見ありますか。

牧野委員長

確かにそのとおりですね。

染谷市長

今、ネットでも子育ての不安だとか、少し書き込みをすれば、だーっと答えが出るようなそういう時代になって、昔のよろず相談みたいなものが、もうネット上にすごく氾濫している時代で、その精神性といいますか、幼さみたいなものまで全部出てしまっているようなそういう文章をよく読みます。

中にはオムツの宣伝に出てくる赤ちゃんのおしっこが水色なもので、

「私の赤ちゃん、水色のおしっこしないんですけど」って言って、心配して来られる方もいらっしゃるというのが現実であります。

ですから、やはり人と人が出会って、そこで話をするということでネットでは解決できない、やはり安心感につながるし、支えられているという気持ちにつながっていくのだろうなということで、島田市は民間のボランティアさんも含めて、手厚い、人としての支援というか、そこをやっているというように思っております。

これからも、いろいろな講座や研修等が行われているのですが、できるだけバラエティに富んだ時間帯や講座の中身を設定しながら、希望者の方々がそれを受講できるような、ターゲットを必ず絞って講座というのを開設していますので、そのターゲットが一番出やすい時間帯や曜日、時期等を考慮しながら講座を開設していくということで、これを担当課のほうにしっかり伝えていきたいと思っております。

教育長、いかがでしょう。

濱田教育長

六合中学校で、子育て中のお母さん方が自分の赤ちゃんを連れて中学生と触れ合うという体験をしていました。

これは大変好評で、中学生にとっても大きなメリットがあったし、それから、参加したお母さん方にも好評でした。

県外から島田市に移って来られたお母さんは、こういう子育ての皆さんと集まったり、中学生と触れ合う場があるということについては、大変喜んでいたし、島田市のこういう活動を見て、島田市の子育て支援の充実さというのを実感したよというようなお言葉もいただいています。

教育委員会としては、義務教育ですから、中学校の教育課程とかにはかかわることができるものですから、必要に応じては中学生の育児体験というのですか、子育て体験みたいな中で、保護者の皆さん、また幼児を抱えているお母さん方が集まっていただく、その機会をうまく利用すると、親同士のネットワークをつくることも可能かなということ、今話を聞きながら思いました。

親同士の横のつながりができると、講座を持たなくてもお互いに助け合うというような仕組みができるかもしれないな。どこかできっかけがあれば、うまく回っていく可能性もあるな。すべてとは言いませんが、講座を否定するわけではないですが、講座を持ちつつも、その足りない部分は、ほかの部分で補う方法があるかもしれないな。そういうところを探していくことも必要ではないかなということ、今お話を聞いていて思いました。

染谷市長

私も同じことを思っております、中学生の育児体験の場としても大変有効でして、できれば年に何回か、3回でもいいんです。1年を通して同じ赤ちゃんと出会うと、その子供さんの成長ぶりに中学生はびっくりするわけです。まだ首もすわらない赤ちゃんが、次に会ったときにはお座りしてて、次に会ったときには歩き出したりするわけです。

やはり、そういった同じ親子さんと中学生が1年を通して触れ合うという中で、子供たちの育児体験にもつながり、命の尊さを学ぶ機会にもつながり、また親子の参加される方たちも同じ方たちが会場で会えば、

それがネットワークになって、同じ地域にいるんだねっていうことで、またお友達もつくれていくといいなと、そんなことを思いました。

講座だけではなく、さまざまな機会を通してながら親子のふれあいや、そして、これから親になる世代の教育というものも深めてまいりたいというように思いました。

いかがでしょうか。よろしいですか。はい。

では、3番目の御意見はここまでいたします。

そして4番目は、市民遺産という、ことしから始めている事業にも関連しての話ですが、住みたいまち島田ということで、それぞれの地域が大変に特色ある、個性のある、特性のある文化遺産を持っているし、地域の自慢があるのだけれども、それが、その地域だけのものになってしまっていて、市内全域としてなかなか共有できていないのではないかと。島田市全体としての互いに共有する意識、我がまちの自慢、みんなが島田大祭を我がまちの誇りとできるかどうか。あるいは、お茶祭りをこの時期はみんなでというそういったイベントにできるかどうかというようなことを、どうすれば一体感をこれから醸成していくことができるのかというようなことについて御意見をいただければと思います。

いかがでしょうか。

私もことし、6年に一度、祭りがすべて揃う年でございます。島田大祭も、お茶祭りもすべて、鬘まつりも揃う6年に一度の華やかな年でございますが、島田大祭のその時に、市内全域ではちょうど秋祭りのシーズンでして、あちらでもこちらでも、ほかの神社さんがお祭りをやっているという状況でございます。そうしますと、なかなか島田大祭という全国からお客様がお見えになるような大きな行事であっても、市内の方がまだ見たことがないというようなことも出てくるということでございまして、一つの伝統ある祭り事に対する、その祭りが持つ意味でありますとか、これまで300年以上続いてきた歴史等を皆さんに知っていただければ、市民の皆さんだれもが、これは島田の誇りだよ、島田の文化だよ、自慢だよ、ねって思っていたらと私は思っているのですが、なかなか全体に広まっていかないのも事実であります。

これは、各地域に、やはり同じような特性があって、我がまちの自慢と地域の方が思っても、全体として広がらない。

例えば大井川鐵道も、金谷や川根の方々にとっては、この地域の地域資源として大変に自慢とっています。ところが、六合や初倉や旧島田市内の方々にとっては、大井川鐵道は少し遠い存在というように思っているかもしれません。

こうした我がまちが持ち得る地域資源を、どのようにしていけば一体的だといいますか、市民の互いの共有財産になっていく、そういう意識が育っていくのかということでの御意見でございます。いかがでしょうか。

牧野委員長、何か付け足しがありましたらお話しをしてください。

冒頭にも話しましたがけれども、丸馬出を見たかったら諏訪原城へ来いよということですが、地元の人たちはほとんど知りません。

牧野委員長

今、テレビで連続の大河ドラマで真田丸をやっておりますが、大阪城を守った真田丸に丸馬出が設けられていて、それが非常に功を奏したという話を全国の人には知っているのですが、肝心の島田の皆さんは御存じないと、私も含めましてね。

そういう状況でしたので、何かそういったいわれとか、今までこうして来たのは、こういうことがあるのだよ、大切なものなのだよという紹介を皆さんもう少ししていただいてもいいかなと思います。

ですから、市民の中でいろいろな知識を持たれている方が自前で講座を開いてくれてもいいですけども、そのような機会をつくって、もう少し情報が共有できることを考えたらいかがでしょうかと思います。

染谷市長

そうですね。諏訪原城の件につきましては毎年、講演会等を行っております。全国からお見えになりますが、十分に市内の方たちが、その価値について認識しているというところまでは、まだまだいっていないかもしれません。

北島委員、御意見ありますか。

北島委員

あまり積極的な意見ではないのですが、例えば私が住んでいるところの大草でも、やはりずっと島田の旧市内よりも古い歴史を持ったいろいろな行事がございまして、そちらはやはりつぶすわけにはいかないの、しっかりとやる。そうすると、例えば帯祭りは見に行くチャンスはないとかいうようなことが、もう幾らもあるわけがございまして、それはどの地域でもきっとあると思います。

例えば初倉なんかでもそうですね。あれも昔から平安時代からあったところですから、そういうようにそれぞれのところで、それを深めていき、それを継承していくということが、まず第一の大事なことではないかなと思います。そして、それをみんなが味わえばいいのですけれども、無理のない範囲でということになると思います。

それから、教育委員会でやれることは、先ほど出ましたような講演会のようなものですね、こういったものをタイミングよくやる。

それから市民遺産、まさに市民遺産のこの事業が始まりました。そのことそのものが、まず非常にこれから期待が持てる場所ではないかと思えます。それで初めてそんなのがあったのかということを知るところになると思います。

私も、まだ公表されていないのかもしれませんが、全部は知りません。というような状況ですから、まず第一歩が今始まろうとしているところだものですから、これは、あまり焦って何かできそうなことというのは多分どうなのだろう、あまり思い浮かばないのですね。まず、ここ第一歩を見て、そして、それがどのように広がるのかどうか、このあたりをよく注視していくところから始めるべきではないかなと私は思っています。

染谷市長

ありがとうございます。

何かほかに御意見ございますか。

教育長、お願いします。

濱田教育長

市民遺産のことにかかわっては、各遺産の紹介パネルをつくる予定で

います。おおりの下のホワイエですか、あそこで展示するような計画もしていますが、そういうようなものを各公民館とか、人が集まるようなイベント時に掲示してもらおうというのは、まずとりあえずできることかなと思います。

それからもう一つは、今、島田第一中学校の地域連携室に市民の皆さんの撮った写真のギャラリーみたいなことをやっています。写真愛好家の人たちが撮った自分の自慢の一品を掲示している。それを地域の人も見ているし、中学生も見えています。そういう地域連携室などにそういうパネルを掲示することによって、中学生または、いろいろな地域の人たちが見るといふ、違う地域の市民遺産を知るといふ機会にしていくといふのも一つの方法かなということをおもいます。

いろいろな機会を利用して、教育委員会としてもPRに努めていきたいなとは思っています。

また、地域にお願いをしなければならないことがあると思うものですから、そこら辺は上手にやっていけたらいいなと思っています。

いろいろと御意見をいただき、ありがとうございます。

ことしから始めた事業でございます。この市民遺産といふのは、文化財未満だけれども、各地域の人たちが大変にこだわって、自分たちの、そこに住む人たちの守りたいという熱い思いがつながって、地域の魅力をつくり、自慢の行事なり、環境なり、あるいは物なりになっている、人なりになっているというようなものをあわせたものでございます。

こうしたことをしっかりこれからも、3年に一度ということをおもってございまして、3年に一度、島田の市民遺産を認定し、その間の次の時までの2年間に、この市民遺産に選ばれたものの数々の紹介でありますとか浸透を図り、そしてまた3年後には新たなものを認定しつつ、前回認定したものがそのままずっと育ってきているのかどうかということの検証をするといふような形になってまいります。

ぜひ市民遺産の今回から始めた事業も、それぞれの地域が持っている特性を生かして、島田全体の共有財産をつくっていかうということでございますので、そういった流れで地道にはありますが、市域全体で我がまちの遺産、宝物としてふえていくものをつくって、自慢できるものをつくっていきたいといふようにおもいます。

では、次に移らせていただきます。5番目が市内外国人との交流ということで、外国人と交流することによって、逆に島田のよさに気づかされたり、あるいは外国人の方々と交流することで島田の魅力を発信してもらおうといふような形で、もっと市内にお住みになっておられる外国人の方々と交流できないかということでございます。何か御意見ございましたらお聞かせください。

例えばですね、今、外国人との交流ということでは、国際交流協会というのがございまして、それぞれリッチモンド、ブリエンツ、日中といふように友好委員会がございまして、それから台湾の嘉義市でありますとか、あるいはモンゴル、ナラン外国語学校との協力、連携でございますとか、幾つもの交流事業はあるのですが、これとは別に、この地域にお

住まいの外国人の方々との交流会というのは、多分クリスマス会であったり、中国人の皆さんとの交流会であったり、国際交流協会が主体になっている行事が多いのかなというように思っております。

いかがでしょうか。

牧野委員長、問題提起していただきましたけれども、何か提案もごございますか。

このごろ子供たちが学校で外国語を少しやっています。

私の気持ちとしては、国語をやってもらって、日本のよさをもっと知ってもらいたいというのが本音なのですけれども、外国人と話をしますと「本当に日本って、いいよね」「こういうところ、いいよね」って、いいことづくめが多いです。話をしますとね。

ですので、子供たちにも、もっと外国の方と話をしてもらいたいということでお話しをさせてもらいました。

ボーイスカウトなんかでも、大会がありますと外国人と話をする機会もあるのですけれども、限られた人物だけなので、もう少し島田市の子供たちを中心に外国の方と付き合う何かチャンスを与えていただければと思います。

近くでは、3月20日に国際交流協会の皆さんで市内在勤の方、在住ですか、ちょっとわかりませんが、東南アジアから研修で来られた皆さんと交流会を予定されているようですが、なかなか周知されておりませんし、年に1回ですので、チャンスが少ないと。やられている内容というのは非常に華やかで、楽しくて、それから向こうの文化が知れるいいチャンスなのですが、なかなか参加ができないというのがありました。それを少し思ったものですから、この場で紹介させていただきました。

ありがとうございます。

私も毎年この国際交流の行事には参加をしております。

外国の方々、日本の着物を着せていただいたり、和文化に接していただいて、それを大変楽しみに大勢の方が来られますし、自国の文化の発表ということで、舞踊、踊りをやっていただいたり、歌を歌っていただいたり、本当に楽しい一日を過ごす大会になっていますが、まだまだ市内全域にこれも浸透していないということもあると思います。

それから、もう一つ私自身が外国の方々と接して思うことは、どこの国の方々も、我がふるさとの自慢、我が国の自慢というものはっきりお話しになります。

ところが日本人は、どちらかというと、なかなか我が国の歴史さえも十分に表現ができなくて、やはり我がまちは世界中のどこよりもいいまちなのだよってというようなことをたくさん表現できる、そういう外国の若い人たちを目にすると、我が日本の若者も日本のことが積極的に語れるといいな、ということをつも思うところであります。

やはり、自国の文化、歴史、こういった根っこを持っているということが、本当の意味での国際人になることだというように私は思っています。

北島委員、いかがですか。

牧野委員長

染谷市長

北島委員

そうですね。かつての仕事柄、国際的な医学会など日本で行われるものもありまして、少しアトラクションで何かないかなというようなことをやると、例えばミャンマーの方などは「じゃあ、やります」って、前の日に言ってもですね、何だかローソクを両手に持って、それですごい素敵な踊りをやってくれるとかですね。言われれば、すぐにでもできるようなものを基本的に持っている。普段はそんなことは片鱗も見せませんけれども、そういう外国人の方はすごく多いのです。

インドネシアの方も、そういう留学生が披露してくれた向こうの民俗音楽を聞いたことがありますけれども、何もそういうことを準備してきているわけではないのですが、即出ます。

日本人は、では和文化的なものやばっとアピールできるか。何もできません。基本的にはできません。これ非常に残念だと思います。

そういう意味では、交流会というのは、非常に漠然として僕にはイメージがつかめないのですけれども、そうしたきっかけとしてはいいかもしれないませんが、本当にやるべきことは和文化的な教育をきちんと身につけることではないかなというように思います。

それがあれば、きょうのあしたでも、いつでも何か少しぐらひはアピールできるんだと思うのです。まさに何かとってつけたものではなくて、自分の生き方そのものが日本人だと感じてもらえるものというものは、やはり子供のときから少しずつ身につけさせなければいけないのではないかな。

ですから、教育委員会としては、どちらかという学校教育の中でやはり和文化的なものをもう少しまともにやらなくてはいけないのではないかなと思います。今は形だけですね、本当にさわりだけです。

着物が着られないです、まず。和服も着られないですね、ちゃんと一人で。こういうところから、もっと足元から教育をきちっとしないといけないのではないかな。教育委員会がまず、すべきことはそちらではないかなというように思います。

交流はいつでもできると僕は思うのですけれども、それさえあれば。それがなかったら、交流会に幾ら慣れても、多分実質が伴わないのではないかなというように思います。

牧野委員長

言い方を変えますとね、交流会へ出てみると、何で向こうの外国の方はすぐそうやって踊りもできるし、歌もできるし、何かすぐできる。それから自分の自慢するものがある。だけど自分にはない。じゃあ、どうしたらいいか、という発見にもつながってくると思いますので。

私も子供たちと、じゃあゲームしようという時間があって、すぐそのゲームになかなか入れないですね。いろいろなゲームがあると思うのですけれども、手の内があまりなくて、それでいつも子供たちと遊ばせるには苦労します。

ですけど、大体外国のボーイスカウトなんかで来ている子供たちは、大体10個ぐらひは手の内があって、その中からいつでも出せるようなことがあります。でも、日本はなかなかやれません。

北島委員

本当におっしゃるとおりだと思います。

染谷市長
北島委員

どこに原因があるのかなという、時間ありますか。市長さん。
どうぞ。

前々からよく思っているのですが、非常に幸せなことなのですが、日本は小学校から大学教育に至るまで、ほとんど自国語で書かれた教科書ですべて勉強できるのです。こんな幸せな国は意外にないので、韓国でもそうです。ないですよ。教科書は大学生が何を使っているかという、英語の原書をそのまま使っています。

多分、その教育課程の中で、どうしてこんな外国語でやらなくちゃいけないんだということは基本的にあります。そのたびに自分は何国人だ。韓国人だとか、ベトナム人だとか、こう考えるんじゃないでしょうか。日本人は考えないです。教科書が日本語でできています。それは当たり前で、それが日本の文化になりきっていますけれども、いったん外国人の目から見ると違いますよね。

それは日本じゃない。明治以降、学校制度、教育制度をリニューアルしました、西洋式にですね。そうして教科書も全部日本語にしました。これすばらしいことなのですが、一方で、少しそういう感覚のずれを生じています。自分が本当に和の文化の中に育っているという実感を毎日感じるでしょうか。感じないと思います。

ところが、ほかの国はそうでもないですね。無理やりにでも外国語の教科書を使わざるを得ないのです。こういうところが基本的に少し違うのではないかな。

だからこそですね、意識して教育の中で、日本人が少し誤解しているとか、感覚がずれてしまっている部分を修正するためには、日本の文化というものをもう少しはっきりと強調してやらないと、輪郭がぼけてしまうのではないかなというように思っているのです。

高橋委員、何か御意見ございますか。

先ほど北島委員がおっしゃった、交流よりも、まずは学校で小さなときから和文化というのが大事ですと、交流よりもというよりも、交流もいけれども、まずは和文化というものがいいというその意見には賛成です。

ただ、学校の現場でそれを加えるとなると、今の学校の現場では、どこの学校もみんな少しずつ和文化にはかかわっていても、研究校とならなければ深く、広く、全校を挙げて、先生たちも交えてという体制はなかなか大変かなというように感じました。それで、その時現役を卒業し、セカンドライフを歩き始めましたという方たちの力が発揮されるのではないかなと思います。それは、地域が子供を育てるということにふさわしいかなというように私は思っています。

川根で言うと、笹間神楽ですか、教育長もよく御存じですが、笹間神楽も、川根中学校に濱田教育長のときに取り入れて、今もずっとつながっています。それは子供たちだけのものではなく、学校だけのものではなく、実際に笹間と家山をつなぐものでもあるんですね。

それから、お正月の門松をつくったり、そういったことも、縄をなうというのでしょうか、そこから始める人はいなくて、そのつくり方、そ

染谷市長
高橋委員

染谷市長
濱田教育長

れも子供たちが目を皿のようにしてお年寄りを囲むようにしてやるのが毎年つながっている。それは地域をというよりも、各家庭でつながれてきた、おじいちゃんが孫につなげているような、そういうことがだんだん広がって行って、継承されていく。

よく日本人は仏教なのにクリスマスケーキを買って節操がないっておっしゃる方がよくいるのですが、そうであるけれども、そこがまたいいところでもあるかなというように、よその国のように、イスラムの人たちのように、宗教が違うだけで殺し合いをする国よりいいかなというようにも感じます。

根本的に北島委員の言った意見にとっても賛成です。そこに、先生方を助けるために、多くの方たちが応援の手を差し伸べる体制があったらもっといいなと思います。

ありがとうございます。

北島委員がおっしゃった和文化をもっと徹底してやりなさいという御指摘については、学校現場を考えますと、これ以上の活動を取り入れるにはなかなか難しいという現実もあります。

教育課程の中にこの和文化を取り入れるとなると、総合的な学習の中、または特別活動の中で取り入れるしかないかなと思うのですが、いろいろな時間的な制約もあります。

そういう中で、各学校が何を選択するかということもあるものですから、大事なことはわかっているけれども、すぐにそれを取り入れるということについては、なかなか難しい部分があるかなというように思っています。

一方で、先ほど高橋委員が少し門松づくりのことについて触れましたが、あの活動についても、すばらしい活動だと思うんですね。地域の方々がいろいろな材料を集めてくれているし、さっき言ったしめ縄の縄のない方も教えてくれるとか、つくり方を教えてくれるとかということでもたくさんかかわってきています。

こういう活動について、当たり前のようにやってきた部分があるなど私は思っています。何が足りないかという点、こういう活動ができる地域のすばらしさ、それからその伝統を引き継いでいるシステムのすばらしさ、そういうところのすばらしさをきちんと子供たちに伝えているかなという点、若干そこは弱かったなあと感じます。

ですから、子供たちの頑張りを価値づけろということも言っていますが、一方でいろいろな活動についての価値づけをしっかりとほしいということも昨年度あたりから少し言い始めています。そこら辺を少しずつ校長と面談する中で伝わってきているものですから、手応えを感じているものですから、そういう部分をきちんとやっていけば、地域の文化のすばらしさ、そういうことが子供たちにきちんと伝わっていくのではないかなということを思います。

目に見えて何かができるということにはならないかもしれないけれども、地域のよさ、地域の文化のよさ、そういうものをきちんと理解する。または、一歩進めば、それこそ文化を引き継ぐ子供たちが育っていくの

北島委員

ではないかなということを期待しています。

価値づけというのが、まず第一歩かなと今は考えています。

以上です。

大変すばらしくいい意見だなと思います。

少し誤解をされたかもしれません。学校教育だけで何とかしようということを申し上げたのではなくて、これは教育委員会としてということは、幼児からも高齢者まですべて生きている限りということでもありますので、何かそういった仕組みができるといいなと思いました。

でも、例えば交流会も少しはかかわってきます。それから市民遺産だって結局はかかわってきます。それから、あまり形に残らないわけですが、例えば大草でやっているのは、どんど焼きとかですね、こういったことを中学生がしめ飾りなどを集めてきて、天徳寺の横の河原で燃やすのですけれども、そんなことを地域一体となって大人もやる。そこでだれかは、これはもともとこういうものだよってというような話をしてくれるとかですね。何かそういったことを大事にして地道にやっけていかなくてはいけないし、例えば子供だけ、ある時期だけやっても、それは全然中身は残らないのではないかなと思います。

大人ももう少しその辺は気をつけて、不便なものだからもうやめてしまえではなくて、何か少しそこに、まさに価値を見直すということをして教育委員会も応援したいなと思うところでもあります。

以上です。

染谷市長

ありがとうございます。

市内在住の外国人との交流の話が、いつしか和文化教育の大切さになり、地域が人を育てるということで、そうした地域の活動のすばらしさというものを価値づけていくことが、ひいてはまさに国際人を生んでいくことになっていくというお話しをいただきました。

これは、我が教育委員会の本当に特色が非常に滲み出た今の議論だったかなというように思っています。

締めとして、少し違う観点からお話しをしていただきますと、先ほど海外へ島田のよさをアピールできるというようなことが出ました。

私どもが日本人の感覚でアピールしても、これは外国の方に魅力的に映るかどうかわからないのです。やっぱりネイティブの方の感覚でもってこの島田のおもしろさや、すばらしさや楽しさを発信してもらわなくてはならない。そういう意味では、もっともっと外国人の方々に、この島田のよさに触れる機会をつくって、発信力を高める活動も、行政として、していかなければならないということをつくづく感じております。

例えばホームページを英語版にしたといっても、それは大した魅力的なものにはならないのです。むしろ、例えば川根温泉のソフトクリームがおいしかったよとか、どんど焼きがすごかったよとか、あるいはボーイスカウトの活動に行ったらこんなことに出会ったよというような、その国の方々の感性で島田の魅力を発信していただける、そういう方々をこの島田の中にたくさんつくっていかないと、内向きの話、議論になってしまうかなと思いました。

ですから、外に向けての発信力を高めるという意味では、今のお話しとはまた違う方向性での検討が必要かなと思っておりますので、ぜひまたそこは教育の分野においても御議論をいただければありがたいというように思います。

牧野委員長から御提起いただきました五つの課題については大体議論が深まったのですが、教育長、何かお話しありますか。よろしいですか。

濱田教育長

今、市長のお話しを聞いていてですね、まさに地域づくりにかかわってくることだなということを思います。

地域行事に外国人を取り込むというか、巻き込むということが、今の市長の話のほうから見えてきたなと思うものですから、そうなりますと教育委員会だけでなかなかできない部分があるな。ですから、自治会等にそういう意識を持っていただくと、北島委員がさっき言った、どんど焼きは地域でやっています。そういうところに外国人が来て、日本にこういう伝統的な習慣があるのだということを理解していただいたら、その方にやってくれて頼まなくても、何らかの形で情報発信をしていくかもしれません。

そうすると、おもしろい形の展開ができるかなということもあるものですからね、ぜひ地域づくりというですか、そういうところでの協力を得たいなと思いました。

染谷市長

そうですね。まさにそのとおりでございます。

ほかに何か御提案がございましたら、お話しを聞かせていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

北島委員。

北島委員

これは提案といいましても、簡単に施策に反映できるような問題ではないのかもしれませんが、少し次元の違う話をやっぱりここでしておいたほうがいいかなと思います。

もう御承知かもしれませんが、今、晩産というのが、晩婚ではなくて晩産というのが時々マスコミで出ておりました、この子供の教育の時期と親の介護の時期が同時に重なってしまう。これ非常に暮らしにくい、そういう状況がそろそろ起こりつつあるようですが、これはもう少しすると、もっともっとひどくなると。5年とか10年とかぐらいのスパンで見ていきますと、教育委員会として、島田の教育としても、これに無縁ではられないのではないかなというふうな危惧を抱いているのです。

私の息子たちの世代を考えてみても、まさにそういうことになるかな。私の孫が二十歳近くになると、まだ学業を終えていないかもしれませんが、そのころに私は幾つになるのかと考えますと、もう90近いのではないかなと思いますが。早く死ねばいいのですけれども、不幸にしてまだ生きていますとですね、私の息子にとっては、親の介護と子供の教育とがまさに重なって大変なことだろうと思うのですね。そういうことがごく普通に、どの家庭でも起こり得るわけなのですね。

やっぱりそういうことが目に見えていますので、人口の問題、それから進学にまつわる問題、こういったものがあります。経済的にもなかなか厳しい状況があります。

染谷市長

こういうことに島田の教育も、やはりその後、もう10年もすると大問題かもしれないと思うのですけれども、これ今、だからと言ってそう簡単に処方箋が書けるわけではありませんが、こういったことを、この総合教育会議でもまず念頭において、毎年これは会議をやるのとすると、その都度やはり少しずつ考えていかななくてはいけない問題ではないかなということをし少し申し上げておきたいなと思いました。

ありがとうございます。

今の御意見は島田の現状を踏まえましても、子供さんを産んでいただく、そういう政策をしていきたいわけですね。ところが、この晩産という問題は、例えば今、平均的に初婚年齢が30歳前後になってきております。そうすると、女性の場合は大体40歳ぐらいまでが自然に妊娠する期間としますと、3人生むのは難しくなっているかなと。国や県も20代の半ばに一人目を出産してほしいというようなことをこのごろ盛んに言っておりますが、社会のシステムが、大学を出て10年ぐらいはキャリアを積んで一生懸命仕事をしないと認められない、そういう時代になっていますので、なかなか就職してすぐに結婚します、子供を産みますということができないという社会風潮もございます。

ですから、国全体として働き方でありましてか、子供を何人ぐらいほしいのか、いつの時期に産んで、どう子育てしていくのかということもあわせて考えていかなければならない。これも社会問題になっていると思います。

と同時に、30歳前後で結婚して、それから子供を産むということになれば、まさに親の介護と重なっていくという課題もございます。

それから、教育委員会には直接関連はしないかもしれませんが、未婚ということも大変ふえておりまして、未婚の方が両親の介護を一人でするということも現実にもふえてきております。こうしたことも大きな社会問題になっていくというように考えております。

今一つ御提案をいただきましたけれども、最後にですね、次年度以降のこの島田市の総合教育会議の議題といいますか中身について、今回いただいたこの晩産、子供の教育と親の介護が重なってしまうというようなことも一つの課題ではあると思いますが、ほかに次年度以降のこの総合教育会議において話し合いたいテーマ等ございましたら、御意見をお聞かせ願いたいと思います。

いかがでしょうか。

こんなことについて来年度以降、次年度以降、話し合ってみたいというようにござります。

きょういただいた五つのテーマ、そして晩産の問題を含めて六つの課題をお話しいただきましたから、これも次年度以降のもっと深めていくお話しの一つかと思えます。

例えば私立の幼稚園と幼児教育のあり方についてというようなことも一つのテーマかと思えますし、それから横のつながり、教育における、教育委員会だけではなくて、市長部局との連携というようなこともテーマかもしれません。幾つかきょうの御議論の中にも次年度につながる課

題はあったかと思いますが、ほかに御提案がございましたら伺いたいと思います。

高橋委員

学校現場で人出不足が深刻になっているということは、学校を訪問したり、それからいろいろなところのお話を聞くと深刻だなという感じがしています。

定年退職で学校の先生をやめられた、まさに達人の先生方が何人もいらっしゃるわけですが、現在、教育センターに通ってくださっている萩原先生、それから永井先生、お二人の先生を初めとして、あそこのセンターの先生方のおかげで状況がよくなった子供たちが何人もいるということを学校教育課の報告で伺っています。

ぜひセンターだけではなくて、普通の学校にも何人も先生が行って学習支援をしていただいたりしていることは存じ上げています。きょうは欠席ですが、五條委員もその中の一人です。

そういった現場にやはり精通された先生が、その場その場に適した支援をしてくださるといえることは、とてもありがたいことではないかなと。それは、やはり教育の基礎をしっかりとみんなで、縁の下の力持ちではないですけども、支えてくださる大事なことだと思います。ぜひ退職されてからもお力をおかりできるような、そんな働きかけをお願いしたいと思います。

染谷市長

ありがとうございます。

再任用の先生方、先生方に希望していただければ、本当にウエルカムなのですが、なかなか再任用の希望というの難しい現状があるかなとは思っているのですが、教育長、何か御意見ございますか。よろしいですか。はい、教育長。

濱田教育長

再任用は確かに広がってきています。

ですから、そのまま退職して時間を十分に使えるという方が少なくなっているということがあると思います。

ですから、本当に時間が十分あって、言葉は悪いですけど、持て余すくらいの方がいけばうまく使えると思うのですが、なかなかそういう方が少なくなっているということが一方であります。

ただ、教員の力をうまく活用していくということについては必要だなということは思っているものですから、今後も検討するし、また教員OBに働きかけはしていきたいなと思います。

染谷市長

ほかに御提案ございますでしょうか。

よろしいですか。はい。

そういたしましたら、きょういただいた提案でありますとか、課題としてお話しした中身の中に、次年度の私ども総合教育会議の中身、内容について課題となるようなものを探しながら、次年度以降も総合教育会議をしっかりと議論してまいりたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

本日、長い時間にわたりまして御協力いただきまして、ありがとうございました。

本日、皆様からいただいた御意見をもとに教育等の振興を図るために

重点的に講ずべき施策を整理して、より議論を深めてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

本日、有意義な意見交換ができましたことを感謝申し上げまして、第4回の総合教育会議を閉会とさせていただきます。

本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

閉 会 午後 4 時 38 分